

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての視点から指導案を作成してください。

中学校指導案様式

第○学年 ○○科学習指導案

学習指導案の作成に当たって、以下の資料を参考にしてください。

- (1) 「学習指導要領解説」(各教科) H29 年 7 月
- (2) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
(小・中) R2 年 3 月
- (3) 学習評価の在り方ハンドブック R 元年 6 月

令和○○年○月○日(曜日)○校時

琉球大学教育学部附属中学校

○年○組 ○名

授業者 ○○ ○○ 印

指導者 ○○ ○○ 印

1 単元名

教科によっては、題材名となる場合があります。例：音楽、美術、技術家庭等

2 単元の目標

単元、小単元、題材など、教科によって指導計画を作成する際の「内容のまとまり」の捉え方が異なります。そのまとまりを踏まえ指導計画上の目標を設定することが大切です。目標は、各教科の特性を生かし、3 観点を踏まえて総括的に記述したり、観点ごとに記述したりします。 ※参考資料 (3)参照

3 単元について

(1) 教材観 ※体育科の場合は、(1)運動の特性、(2)子どもから見た動きの楽しさ

①学習指導要領のどの内容を受けて設定した単元(題材)なのか明確にします。

例：本単元は、学習指導要領第2学年の内容 [C 関数] (1)「一次関数」で(イ)「一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること」とある。また…

②本時の教材分析や素材の魅力(体育科については運動の特性)についても記述します。

③本単元(題材)で身に付けさせたい資質・能力について考察します。

例：生徒はこれまでに第1学年で比例の学習を行っているが、本単元では、表、式、グラフを単独で用いるだけでなく、相互に関連付けることで関数の特徴を考察する力を身に付けさせたい。また…

(2) 生徒観

①本単元(題材)の学習に直接かかわる生徒の実態をできるだけ3観点から考察します。音楽、美術については、単元・教材によって、一つの領域に重点化するのか、あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決めます。「主体的に学習に取り組む態度」は、教科の好き嫌いではありません。自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。

②また、事前調査の結果をそのまま載せるだけではなく、日頃の観察を含めて、生徒の状況を本単元(題材)の目標に照らして実態を考察します。

③さらに、今までの学習で身に付いている資質・能力を記述します。また、不十分な点についても記述します。

(3) 指導観

①(1)「教材観」、(2)「生徒観」から、この単元全体・本時の学習内容をどう指導していくかを記述する。(単元の展開方針、単元の教材構造、順序、学習形態、個に応じた学習指導の視点など)

②また、「教材の系統性」について、本単元(題材)にかかわる前後(前学年、後学年)の内容を明らかにし、これまでの学習で身に付けてきた力やこれから身に付けさせたい力を系統的に示します。

4 単元の評価規準

下記の例は、中学校数学です。『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料第3編』（以下、参考資料第3編）P41を参照しています。各教科とも参考資料第3編を参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	①一次関数について考えようとしている。 ②一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている
ここでは、評価基準を観点ごとに2つ程度設定しています。これは目標の実現を図る上で重要な学習活動、評価場面を示していると同時に評価規準が細かくなりすぎないように意図しているものです。		

5 単元の指導と評価の計画(○時間)

時	ねらい(○)・学習活動(■)	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・具体的な事象を捉え考察することを通して、問題の解決に必要な二つの変数を取り出し、それらの関係を表や座標平面上に表すことができるようにするとともに、一次関数の定義を理解できるようにする。	知①：行動観察		
2	・小単元1の学習を振り返って、「学びの足跡」シートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知②：小テスト ※小テストの結果は指導等に生かす。		態①③：「学びの足跡」シート ※小単元2以降の指導等に生かす。
15	・気温が標高の一次関数であるとみなし富士山6合目の気温を予測することで、現実的な事象から二つの数量を取り出し、理想化・単純化し、その関係を一次関数とみなして問題を解決することができるようにする。		・思②(行動観察)	態①～③：行動観察、「学びの足跡」
16	・小単元3や単元全体の学習を振り返り、「学びの足跡」シートに分かったことや疑問、問題の解決に有効である方法などを記述することを通して、学習の成果を実感できるようにする。			・指導に生かす評価 ○記録に残す評価 「指導に生かす評価」は、主に努力を要する生徒を確認し、その後の指導に生かすためのものとする。「記録に残す評価」は、学級全員の生徒の評価を、総括の資料にするためのものとする。また、単元の目標や単元の評価基準に照らして、それぞれの実現状況が把握できる段階を検討し、適切な時間に実施する。参考資料(3)第3編
17	・単元全体の学習内容についてのテストに取り組み、単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価することができるようにする。	知①～⑤：単元テスト	思①②：単元テスト	

6 本時の学習 【○/□時間】

(1) 目標

「5 指導と評価の計画」の本時のねらいを踏まえて、本時で身につけた資質・能力について具体的に記述します。また、児童生徒がどのようなことができるようになったり、書けるようになったりすれば目標を達成したことになるのかなど具体的に示します。基本的には、観点別評価 B の「概ね満足できる」状況に沿う形で記述します。

(2) 本時の授業の工夫

- ①
②

本時の学習に、ねらいに迫る手立てや工夫した指導方法、学習形態等を具体的に示します。

(3) 展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	評価規準 (評価方法)
導入 () 分	1 問題把握	学習活動や学習内容を記入します。	
展開 () 分	2 めあて		予想される『めあて』を記入します。
	見通し	「予想される児童生徒の反応」、「努力を要する状況と判断される児童生徒への支援」や個に応じた支援の手立てを記入します。	
	3 自立的な活動(自力解決)	【努力を要する状況と判断される児童生徒への支援】	【思②】 <u>概ね満足できる状況</u> ○表、式、グラフを相互に関連付けて考察し根拠を明らかにしながら表現できる。(行動観察)
	4 協働的な活動(比較検討)	評価規準については、「概ね満足できる状況(観点別評価 B)」を、評価する場面を記載します。()には、評価方法を記載します。また、「5 単元の指導と評価」の評価規準と本時の評価規準との整合性を図ります。	
終末 () 分	5 まとめ 6 適用問題 7 振り返り	終末には、教科の特性に合わせて、「まとめ」や「振り返り」、「適用問題(評価問題)」を入れるなど、本時のねらいが達成できるように計画し、記入します。	

7 板書計画

実際に板書した写真等を添付しても構いません。

*留意事項

- ①模擬授業の際には、指導案と一緒に教科書のコピーやワークシートを添付する。
- ②数字は大きな項立てから、1、(1)、①の順に使っていく。
- ③余白は20～25mm程度、特に左側はファイルに止めることを考慮して余白を設定する。
- ④ページ番号を入れる。
- ⑤ポイントは10.5ポイントを基本に、題名、見出し等はそれより大きいポイントを使用する。
- ⑥特殊なフォントは使わない。(MS明朝・MSゴシック・強調可)